

直江津港 港湾脱炭素化推進計画 (最終案) の概要



令和6年 月 日

新潟県交通政策局



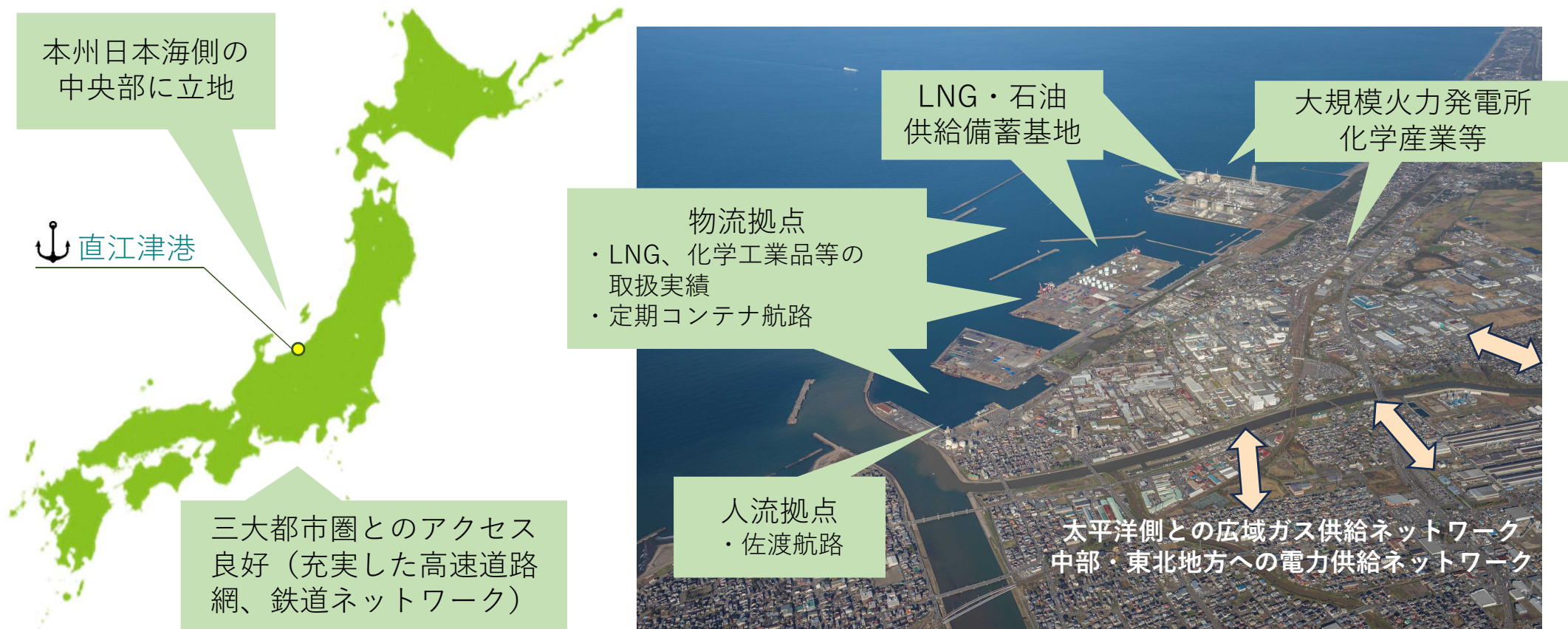
直江津港の現状

特長

● 太平洋側の大規模災害に備えた代替機能

(同時被災しにくい日本海側に立地、三大都市圏とのアクセス良好、太平洋側との広域ガス供給ネットワーク、中部・東北地方への電力供給ネットワーク)

● 豊富な輸入LNG取扱実績、周辺地域に大規模火力発電所やエネルギー基地、化学産業等が集積



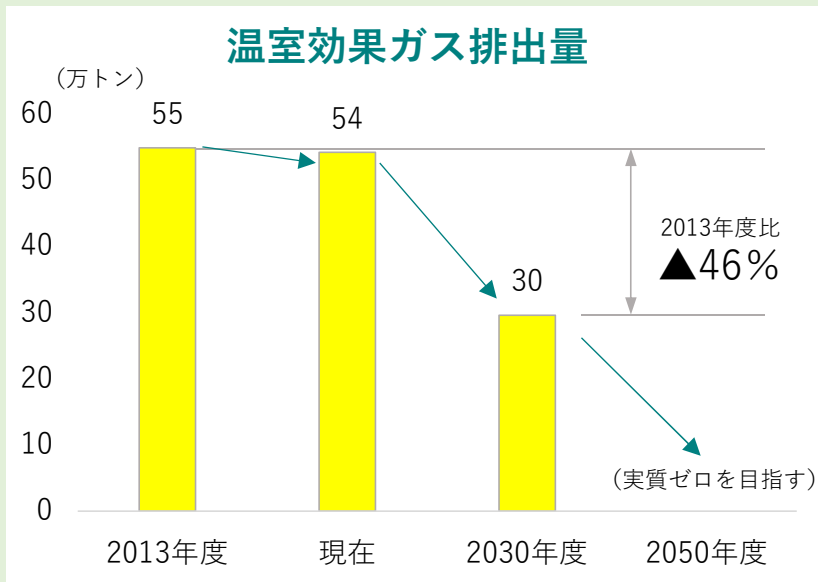
カーボンニュートラルポート形成に向けた方向性

官民連携による港湾の脱炭素化促進に向けた方針

- (1) **次世代エネルギーの日本海側拠点**の形成（立地等による優位性を活かし、新潟港と連携して輸入拠点を形成）
- (2) **港湾エリアを起点**とした脱炭素化の推進（港湾機能、港湾を経由する輸送、隣接エリアの脱炭素化を促進）
- (3) **新潟カーボンニュートラル拠点開発・基盤整備戦略**の実現

温室効果ガス排出量推計・削減目標

- 直江津港の温室効果ガス排出量は**約54万トン**（2019年度推計値）
- **2030年度に約30万トンまで削減**を目指す（**2013年度比▲46%**）
- **2050年度に排出量実質ゼロ**を目指す



次世代エネルギー需要推計

- 新潟県内港を経由して供給される可能性のある**次世代エネルギー需要推計**（2030年度）
※計画対象範囲における需要+新潟県内港を経由して供給される可能性のある広域需要の合計（新潟県推計）
※関係者と具体的な調整がなされたものではない

水素 約 17万トン 、 燃料アンモニア 約 162万トン

港湾脱炭素化促進事業

- **港湾オペレーション・港湾隣接エリア**の脱炭素化（脱炭素電力・燃料の導入、陸上電力供給設備の使用、低燃費船舶の導入、カーボン・クレジットの活用等）
- **再生可能エネルギー**の供給拡大（太陽光）
- **火力発電所**の脱炭素化
- **CCUS[※] 関連技術**の活用に向けた調査・実証 ※二酸化炭素回収・有効利用・貯留
- **環境配慮型製品**の供給拡大